

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	株式会社西原商会 新潟支店新築工事	
建設地	新潟県新潟市東区山木戸7丁目1412番1	
用途地域	工業専用地域	
建物用途	事務所、工場	
竣工年	2019年12月 竣工	
敷地面積	8,746.59 m ²	
建築面積	2,324.93 m ²	
延床面積	3,020.10 m ²	
階数	地上2F	
構造	S造	
評価の段階 評価の実施日	実施設計段階評価 2019年2月14日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{39.5}{38.9} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	2.5		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 1.0
			維持管理	Q2.1.3 3.5
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.9		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.2
			信頼性	Q2.2.4 2.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	LR2.1.1 3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全と創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

防汚性の高い建材を採用、防錆対策、水切りを設置により品質の高い維持管理をおこなっている。地震、強風による揺れによって内部設備の性能低下を防ぐため防振対策に努めている。冷暖房の使用エネルギーの削減エネルギー量を削減し熱負荷制限に対する取り組みを行っている。リサイクル材を使用、LGS下地、OAフロアの採用により再利用可能性向上への取り組みを行っている。

CASBEE[®]新潟

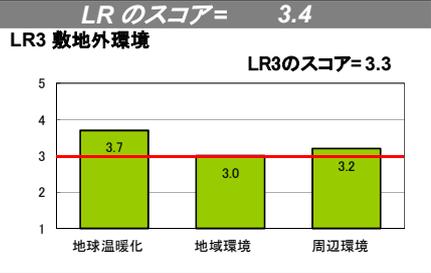
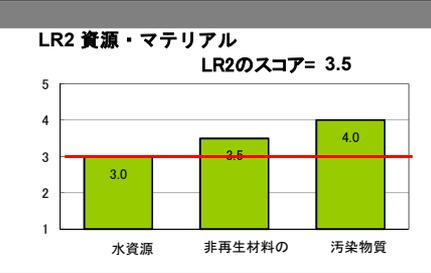
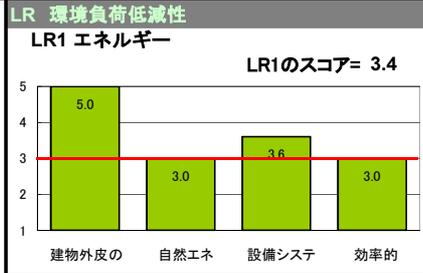
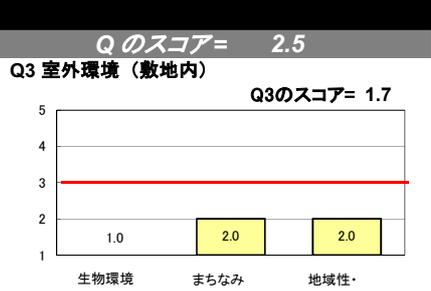
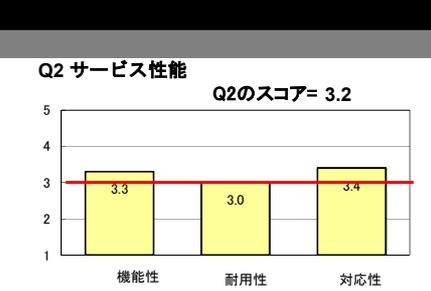
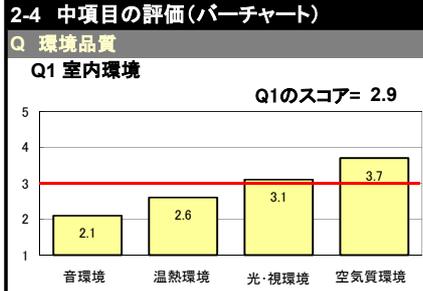
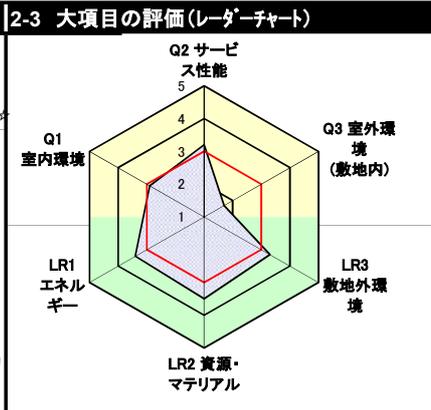
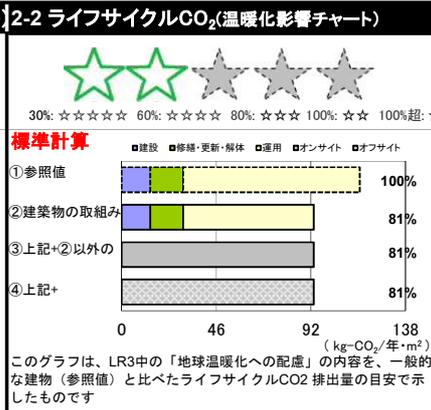
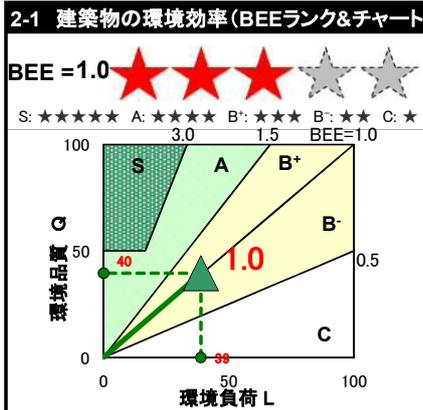
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要

建物名称	株式会社西原商会 新潟支店新築工事
建設地	新潟県新潟市東区山木戸7丁目1412番1
用途地域	工業専用地域
地域区分	5地域
建物用途	事務所、工場
竣工年	2019年12月 竣工
敷地面積	8,747 m ²
建築面積	2,325 m ²
延床面積	3,020 m ²

階数	地上2F
構造	S造
平均居住人員	193 人
年間使用時間	2,120 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2019年2月14日
作成者	(株)エネ・グリーン坪田彩乃
確認日	2019年2月15日
確認者	(株)エネ・グリーン定森淳一



3 設計上の配慮事項

総合
光環境、空気質環境に複数の対策がされており利用者が心地よく過ごせる環境となっている。また天井高、階高を確保し利用者が広く感じる設計となっている。また高い維持管理に努めている。リサイクル材の採用、化学物質の発生しない建材を使用し環境配慮された建物となっている。

Q1 室内環境
光環境を配慮し、作業する際に十分な照度を確保している。空気質環境では材料を選定する際に科学汚染物質の発生しない建材を選び空気質を健全に保てるよう努めている。換気量が建築物衛生法にて定められている数値の1.4倍以上の風量を確保し空気質の向上に努めている。

LR1 エネルギー
冷暖房の使用エネルギーの削減エネルギー量を削減し熱負荷制限に対する取り組みを行っている。

Q2 サービス性能
天井高を3.00m以上、階高4.00以上を確保し利用者が広く感じる空間を造っている。また内装計画にて居心地のよい空間造りに取り組んでいる。防汚性の高い建材を採用、防錆対策、水切りの設置により品質の高い維持管理をおこなっている。地震、強風による揺れによって内部設備の性能低下を防ぐため防振対策に努めている。

LR2 資源・マテリアル
リサイクル材を使用、LGS下地、OAフロアの採用により再利用可能性向上への取り組みを行っている。また環境に悪影響を及ぼさない材料を使用し科学物質の使用削減に努めている。

Q3 室外環境 (敷地内)
特に対策なし。

LR3 敷地外環境
高効率設備の採用等に努めCO₂排出量を削減している。(リサイクルCO₂排出率80%)屋内外照明設備からの漏れ光について対策をしており隣接する建築物に影響が少ない設計を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される